



京都市の高齢者人口

統計解析No.118

—令和2(2020)年「敬老の日」にちなんで—

1 はじめに

「敬老の日（令和2(2020)年9月21日）」を迎えるに当たり、同年9月15日現在の京都市の高齢者（65歳以上）人口を推計しましたので、その概要を紹介します。

なお、この推計は、国勢調査結果等を基礎とし、その後の人口動態を勘案して推計したものです。京都市にお住まいの人数を実際に調査したり、住民基本台帳に登録されている人数等を数えたりしたものではありませんので、御利用の際は御注意ください。

令和2(2020)年10月1日現在の年齢別人口は、同年10月中旬に公表予定です。

2 京都市の高齢者人口

市内の約3.5人に1人は高齢者

令和2(2020)年9月15日現在の京都市の65歳以上の高齢者の人口は41万1,570人でした。総人口に占める割合（以下、高齢化率といいます。）は28.2%で、市内の約3.5人に1人が65歳以上であると言えます。

高齢化率を男女別でみると、男性は25.3%（約4人に1人）、女性は30.8%（約3.2人に1人）でした。

表－1 京都市の65歳以上の人口（5歳階級別）

年	総人口	65歳以上	各年10月1日現在（令和2(2020)年は9月15日現在）						高齢化率
			前期高齢者		後期高齢者				
			65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	再掲 100歳以上	
平成 2(1990)年 ※	1,461,103	185,812	57,432	46,082	40,646	26,365	15,287	43	12.7
7(1995)年 ※	1,463,822	214,598	70,247	52,390	39,443	30,551	21,967	69	14.7
12(2000)年 ※	1,467,785	255,269	81,074	65,211	47,236	31,594	30,154	152	17.4
17(2005)年 ※	1,474,811	295,791	85,338	76,307	58,525	38,929	36,692	373	20.1
22(2010)年 ※	1,474,015	338,682	97,369	80,837	68,790	48,206	43,480	689	23.0
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
27(2015)年 ※	1,475,183	393,143	114,240	92,287	73,308	57,890	55,418	812	26.7
28(2016)年	1,474,735	400,485	118,840	86,693	76,102	60,632	58,218	824	27.2
29(2017)年	1,472,027	404,939	110,712	91,240	79,624	62,046	61,317	912	27.5
30(2018)年	1,468,980	408,406	101,284	97,323	82,904	62,768	64,127	932	27.8
令和元(2019)年	1,466,264	410,425	90,397	103,547	87,166	62,052	67,263	949	28.0
2(2020)年	1,459,480	411,570	83,880	109,540	84,300	63,260	70,590	1,010	28.2
男	690,970	174,790	39,550	50,590	36,580	25,820	22,260	130	25.3
女	768,510	236,770	44,330	58,950	47,720	37,450	48,330	880	30.8

注1) 「※」の年は国勢調査結果です（年齢不詳人口を各歳の割合に応じて按分した後の数値を表章）。

注2) 令和2(2020)年のみ、人口を10人単位で四捨五入しているため、内訳の合計が総数に一致しない場合があります。

3 高齢者人口の推移

増加が続く 65 歳以上の人口

京都市では、総人口が減少する中、65歳以上の人口は増加しています。

65歳以上の人口は、昭和22(1947)年の3万7,355人から増加を続け、平成28(2016)年には40万人を超えました。

同じく、高齢化率(※1)についても、昭和22(1947)年の3.7%以降増加を続けています。

また、老年人口指数(※2)についても、昭和22(1947)年の5.8から増加が続き、令和2(2020)年9月15日現在では指数46.2となりました。これは、生産年齢人口(15～64歳)100人あたり、65歳以上人口が46.2人いることを示しています。

以上のように、高齢者人口、高齢化率及び老年人口指数は一貫して増加し続けていますが、第1次ベビーブーム期(1947年～1949年)に生まれたいわゆる「団塊の世代」が数年前に65歳に達したため、それ以降の高齢化率等の伸びは緩やかになっています。

(表-2, 図-1 参照)

表-2 京都市の65歳以上の人口の推移

(単位：人、%) 各年10月1日現在(令和2(2020)年は9月15日現在)

年	総人口	65歳以上人口	高齢化率	(参考1) 生産年齢人口 (15～64歳)	(参考2) 老年人口 指数
	①	②	③=②÷①×100	④	⑤=②÷④×100
大正9(1920)年 ※	591,323	21,622	3.7	383,895	5.6
大正14(1925)年 ※	679,963	22,422	3.3	455,885	4.9
昭和5(1930)年 ※	765,142	23,164	3.0	521,565	4.4
10(1935)年 ※	1,080,593	33,943	3.1	718,646	4.7
15(1940)年 ※	1,014,614	38,580	3.8	661,264	5.8
22(1947)年 ※	999,660	37,355	3.7	648,426	5.8
25(1950)年 ※	1,101,854	47,041	4.3	705,121	6.7
30(1955)年 ※	1,204,084	59,767	5.0	802,804	7.4
35(1960)年 ※	1,284,818	72,055	5.6	905,684	8.0
40(1965)年 ※	1,365,007	86,680	6.4	1,007,016	8.6
45(1970)年 ※	1,419,165	106,010	7.5	1,025,582	10.3
50(1975)年 ※	1,461,059	129,919	8.9	1,013,952	12.8
55(1980)年 ※	1,473,065	153,107	10.4	1,009,844	15.2
60(1985)年 ※	1,479,218	168,417	11.4	1,027,331	16.4
平成2(1990)年 ※	1,461,103	185,812	12.7	1,042,730	17.8
7(1995)年 ※	1,463,822	214,598	14.7	1,047,523	20.5
12(2000)年 ※	1,467,785	255,269	17.4	1,024,954	24.9
17(2005)年 ※	1,474,811	295,791	20.1	1,000,017	29.6
22(2010)年 ※	1,474,015	338,682	23.0	959,935	35.3
27(2015)年 ※	1,475,183	393,143	26.7	914,844	43.0
28(2016)年	1,474,735	400,485	27.2	908,515	44.1
29(2017)年	1,472,027	404,939	27.5	902,913	44.8
30(2018)年	1,468,980	408,406	27.8	898,730	45.4
令和元(2019)年	1,466,264	410,425	28.0	895,835	45.8
2(2020)年	1,459,480	411,570	28.2	890,290	46.2

注1) 「※」の年は国勢調査結果です。昭和15(1940)年は銃後人口(軍人・軍属を除いた人口)を、平成2(1990)年以降は年齢不詳人口を各歳の割合に応じて按分した後の数値をそれぞれ表章しています。
注2) 令和2(2020)年は人口を10人の単位で四捨五入しています。

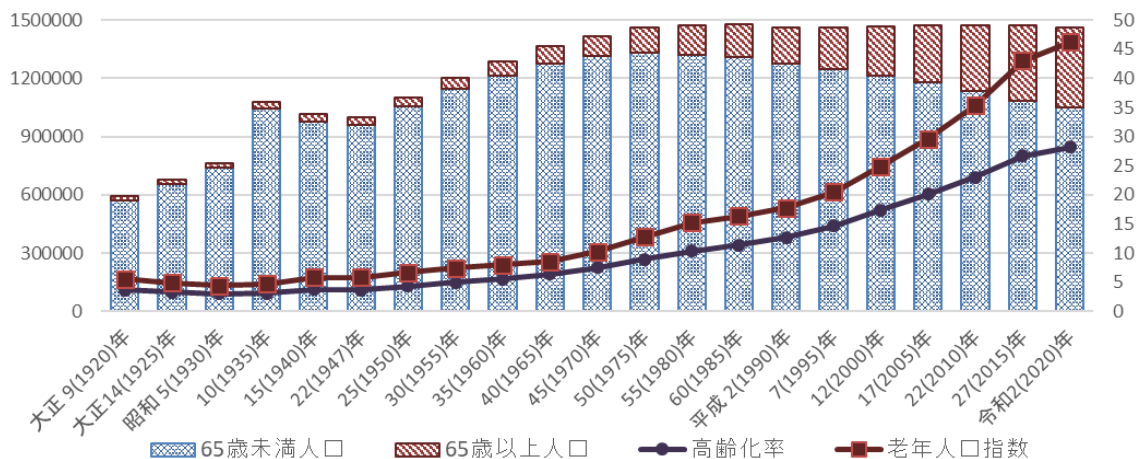
※1 高齢化率

総人口に占める65歳以上人口の割合

※2 老年人口指数

市内の生産年齢人口(15～64歳)100人に対し、高齢者人口(65歳以上)が何人存在するかを示す比率

図-1 京都市の高齢者人口、高齢化率、老年人口指数の推移



4 行政区別の高齢者人口

高齢化率が最も高いのは東山区，最も低いのは下京区

高齢化率を行政区別にみると，最も高いのは東山区(33.5%)で，次いで山科区(31.4%)，北区(29.3%)の順となっています。一方，高齢化率が最も低いのは下京区(22.9%)で，次いで中京区(25.2%)，南区(25.5%)の順となっています。

なお，市全体の高齢化率(28.2%)を下回る行政区は，前記の3区に上京区を加えた4区となっています。また，行政区ごとの高齢化率の差をみると，高齢化率が最も高い東山区と最も低い下京区の差は10.6ポイントでした。(表-3参照)

次に，高齢化率を前年10月1日現在と比べると，最も高齢化率の増加が大きいのは西京区でプラス0.5ポイント，次いで伏見区でプラス0.4ポイント，左京区でプラス0.3ポイントでした。一方，南区ではマイナス0.1ポイント，上京区，下京区では増減がありませんでした。

また，平成2(1990)年から令和2(2020)年にかけての高齢化率の推移を行政区別にみると，増減ポイントが最も大きかったのは山科区でプラス21.6ポイント，最も少なかったのは下京区でプラス3.6ポイントでした。

(表-4，次ページ図-2参照)

表-3 行政区別の65歳以上の人口

(単位：人，%) 令和2(2020)年9月15日現在

行政区	65歳以上人口				高齢化率
	総数	65~74歳	75~84歳	85歳以上	
京都市	411,570	193,420	147,560	70,590	28.2
北 区	34,260	15,830	11,940	6,490	29.3
上京区	23,030	10,160	8,370	4,500	27.4
左京区	47,220	21,780	16,510	8,920	28.4
中京区	27,850	13,130	9,840	4,880	25.2
東山区	12,230	5,340	4,400	2,500	33.5
山科区	42,170	19,290	15,760	7,120	31.4
下京区	18,780	8,670	6,780	3,330	22.9
南 区	25,930	13,080	9,040	3,820	25.5
右京区	58,050	26,680	21,350	10,030	28.6
西京区	41,800	20,710	15,090	6,010	28.2
伏見区	80,240	38,750	28,500	12,990	29.1

注) 人口を10人の単位で四捨五入していますので，内訳の合計が総数に一致しない場合があります。

表-4 行政区別の高齢化率の推移

(単位：%) 各年10月1日現在 (令和2(2020)年は9月15日現在)

行政区	平成2 (1990)年 ※	7 (1995)年 ※	12 (2000)年 ※	17 (2005)年 ※	22 (2010)年 ※	27 (2015)年 ※	28 (2016)年	29 (2017)年	30 (2018)年	令和元 (2019)年	2 (2020)年
京都市	12.7	14.7	17.4	20.1	23.0	26.7	27.2	27.5	27.8	28.0	28.2
北 区	14.1	16.1	18.8	21.2	24.3	27.7	28.2	28.5	28.8	29.1	29.3
上京区	18.4	20.4	22.4	23.8	25.2	27.1	27.2	27.4	27.4	27.4	27.4
左京区	14.0	16.1	18.8	20.9	23.6	26.9	27.3	27.6	27.9	28.1	28.4
中京区	17.8	19.6	20.9	21.2	23.4	24.6	24.8	24.9	25.0	25.1	25.2
東山区	19.9	22.4	25.5	27.6	30.0	32.8	33.3	33.4	33.5	33.4	33.5
山科区	9.8	11.9	15.4	18.9	23.4	29.1	30.0	30.5	30.9	31.2	31.4
下京区	19.3	21.0	23.0	23.2	22.7	23.2	23.3	23.2	23.1	22.9	22.9
南 区	12.1	14.2	16.9	19.2	21.2	24.5	24.9	25.2	25.4	25.6	25.5
右京区	11.1	13.2	16.6	20.2	23.1	27.0	27.5	27.9	28.2	28.4	28.6
西京区	8.4	10.2	12.5	16.2	20.2	25.6	26.4	26.9	27.4	27.7	28.2
伏見区	9.6	11.9	15.0	18.4	22.1	26.7	27.5	28.0	28.5	28.7	29.1

注) 「※」の年は国勢調査結果です(年齢不詳人口を各歳の割合に応じて按分した後の数値を基に算出)。

図－2 行政区別の高齢化率の推移

(単位：%)

